

海洋生物を観察研究 — 能登臨海実習 —

- ◇期 日 令和元年7月23日(火)～25日(木)
- ◇場 所 金沢大学環日本海域環境研究センター臨海実験施設
のと海洋ふれあいセンター、ホテルのときんぶら(石川県鳳珠郡能登町)
- ◇参加者 第1学年探究科学科生徒40名
- ◇指導者 金沢大学環日本海域環境研究センター臨海実験施設
鈴木信雄先生・小木曾正造先生・岡村隆行先生
能登里海教育研究所 浦田慎先生 本校教職員5名

能登臨海実習では、自然の豊かさや厳しさを感じながら、採集した生物の分類・解剖実習等を通して課題を発見し、解決のための観察研究を行い、発表するという、一連の流れを3日間で経験した。



1日目の磯採集では、のと海洋ふれあいセンターの海岸から海



に入り、ウニやヒトデなどの様々な海洋生物を採集した。棘のあるものや毒を持つものもいるので初めは恐る恐る行っていたが、次第に慣れて、生物に触れた時の反応を観察しながら採集することができた。初めて見たアオウミウシは鮮やかな色で形状もかわいらしい生物だが、海水から取り出すとつぶれてしまい、再び海水に戻すと元通りになるという動き

にたいへん驚いた。水から出すと浮力がなくなり、身体にかかる重力を支えきれずつぶれるということだった。海岸から近いところでも多種多様で魅力的な生物が生息しており、海の自然の豊かさを実感した。

その後、臨海実習施設に移動し、採集した生物の分類と同定をした。生物の行動などをよく観察し、疑問に思ったことをテーマに課題研究を進めた。なかなか思い通りにいかず、試行錯誤を繰り返し、研究の難しさを実感したが、今後の課題研究に活かすことのできる良い経験になった。



2日目には、九十九湾の透明度を測定したりプランクトンを採ったりする乗船実習や、サメとエイの



解剖実習を行った。思った以上に大きなサメに驚いたが、解剖は興味深く、サメの体の構造を知ることができた。

3日目には、各班の課題研究について、生徒や先生方の前で発表を行った。また鈴木先生には「生物の分類について」と「動物の不思議」について講義していただき、生物の多様性やおもしろさを学んだ。

2泊3日の限られた時間であったが、理科の原点である自然観察を存分に行うことができ、観察力や思考力、探究力、表現力の必要性を学んだ有意義な実習になった。